

自他のよさを認め合う心情を育てる道徳指導の工夫

～複式学級におけるシェアリングの技法を生かした

「聴きあい活動」を取り入れた道徳授業を通して～

道徳班 吉野 満由美 (小学校教諭)

◇研究の概要

自他のよさを認め合う心情が育つようにするためには、お互いの気持ちや考えを分かち合うことが大切であると考え、中学年複式学級における道徳の授業に、シェアリングの技法を生かした「聴きあい活動」を取り入れることとした。自分の考えを受け入れてもらうことにより、児童の自己肯定感が高まり、友達のよいところを認め合って生活しようとする気持ちを育てることができると考えた。

◇全体構想図

学級満足度尺度 (Q-U) を2回実施することによって、変容を客観的に把握

教師の見取り・日常の観察による実態把握

・友達と仲良くするのが苦手・自分の考えを発表するのが苦手・友達の考えを聞くのが苦手

道徳1「やくそく」

2-(3) 信頼・友情 2-(2) 思いやり

道徳2「当番」

2-(3) 信頼・友情 4-(1) 規則の尊重

道徳3「わすれもの」

2-(3) 信頼・友情 4-(1) 規則の尊重

同じ考えでも理由が違うな。自分とは違う考えがあるな。

〇〇くん(さん)は助けてくれたな。自分はどうだろう。

友達の立場や気持ちを考えることが大切なんだな。

シェアリングの技法を生かした「聴きあい活動」とは？

友達の考えを受け入れ理解しようという受容的な態度で聞く聴き方

【授業の流れ】

1. ひとり学習(5分) → 2. 聴きあい活動①(10分) → 3. 聴きあい活動②(20分) → 4. ひとり学習(10分)

個

自分の考えをワークシートに表現する

異学年グループ

異学年による3人グループで考えを聴きあい質問タイムを設ける

学級全体

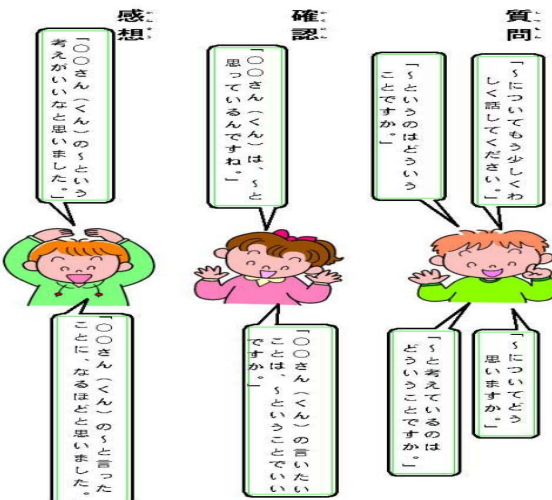
学級全体でお互いの考えを聴きあうことで考えを確かなものにする

個

友達の考えを聞いて深まった考えをもう一度ワークシートに表現する

聴きあい活動の手引きの活用

自作の「聴きあい」の手引き



※友達の考えを理解するため、そして、自分の考えをより深く理解するために

◇成果と課題

シェアリングの技法を生かした「聴きあい活動」により、児童に自分が認められているという意識が高まったことが、Q-Uの結果からも分かる。そうした児童の間には、学年の枠を越え、お互いのよさに目を向けようとする心情が育ってきていることが、日常生活における様々な場面において見て取れるようになった。

今後も、「聴きあい活動」を通して、児童の聴く力や考えを伝え合う力を高め、自他のよさを認め合う心情を、より一層高めていきたい。